

〈特集〉

大学間協定4大学合同国際シンポジウム「東アジア文明の伝承と発展」

特集「東アジア文明の伝承と発展」について

黄 英哲

この特集「東アジア文明の伝承と発展」は、2019年11月16日に愛知大学名古屋キャンパスで開催した愛知大学、廈門大学、東呉大学、金門大学による大学間協定四大学合同国際シンポジウム「東アジア文明の伝承と発展」の成果の一部である。この4大学の大学間協定は、現国際問題研究所長の佐藤元彦教授が学長任期中に実現した。これを基盤にして、国際問題研究所の共同研究プロジェクト「東アジア島嶼部における華人圏研究—金門島研究を中心として—」（代表者：黄英哲、2016～2018年度）の調査研究で、2017年2月に愛知大学の佐藤元彦教授、松岡正子教授、黄英哲教授は東呉大学の謝政論教授とともに金門大学、廈門大学台湾研究院を訪問した。廈門大学台湾研究院の座談会において、四大学は東アジア問題をテーマとする合同国際シンポジウムを順番に開催することを合意し、2017年12月に金門大学、2018年9月に廈門大学で四大学合同国際シンポジウムを開催した。そして去年2019年11月16日に愛知大学名古屋キャンパスにて今回のシンポジウムを開催した。

当日開会式では、愛知大学長川井伸一、愛知大学国際問題研究所長佐藤元彦より歓迎の挨拶が述べられ、廈門大学台湾研究院教授で兩岸関係和平発展協同創新センター主任の劉国深、東呉大学人文社会学院院长黄秀端、金門大学社会工作学系主任葉肅科などの諸先生方が各大学を代表して挨拶を述べた。その後、廈門大学劉国深教授による基調講演「網絡時代的文化傳承及其挑戰—海峽兩岸亞文化衝突的反思（ネット時代における文化傳承と挑戰—台湾海峽兩岸で起こるサブカルチャー衝突についての再考）」が行われた。台湾・香港の状況を踏まえながら、ネット時代の文化傳承及び挑戰を再考させる講演であった。大会は歴史・文化・経済・政治のセッション

ンに分けて17本の報告が実施された（以下当日発表順、敬称略）。

廈門大学陳思「從台灣長官富爾堡的起落看17世紀中期荷蘭東印度公司在台灣地方利益集團的形成及其引發的矛盾」は、オランダ統治下の台湾長官ベールブルグの事例を挙げ、東インド会社と台湾支部の間の争いを紹介して、オランダ統治崩壊の一因であると論じた。廈門大学鄧孔昭「沈光文史事詩事考析」は、鄭成功が台湾統治期に台湾に長期滞在した中国大陸出身の文人沈光文が、後世に過剰評価されることを検証した。愛知大学塩山正純「近代日本知識青年が見た“厦門”像—大正期の東亜同文書院生大正時期『大旅行志』の記述より」は、東亜同文書院生の大旅行から見る厦門と、コロンス島の描写を項目に分け、その変化を紹介した。廈門大学張羽と同大学大学院生賀迪「『公論報』副刊“日月潭”、“游藝”與光復初期台灣文藝重建研究」は、戦後初期台湾で発行した著名な新聞『公論報』文化欄掲載の文化論調及び演劇をめぐる論争への分析を通して、戦後初期台湾の文化再建の複雑さを論じた。東呉大学謝静国「東亞語境下李昂小説的台日中三角情結」は、著名な台湾人女性作家李昂の小説中に見られる政治アイデンティティを社会背景とともに紹介した。愛知大学松岡正子「超高齢社会における家族の選択と住民組織、地方政府の役割—台湾金門県珠山村を事例として」は、超高齢化社会の農村において村に残された高齢者が都市に住む子世代や村の宗族組織、地方政府とどのような関係を築きながら生を全うしようとしているのかを論じた。金門大学葉肅科「金門大學的誕生與金僑興學間的關聯」は、金門大学の誕生にまつわる東南アジアの華僑、政府支援、社会資本などのネットワークが共同で果たした役割を分析した。廈門大学蔣小波「“仲尼未嘗不訪魯哀公”：新亞初期錢穆二度訪台行跡探析」は、香港新亜書院初期における著名な中国人学者錢穆の二度の台湾訪問の足跡を辿ることで、50年代初期の冷戦時代突入後に台湾、香港に離散した中国知識人の苦勞の行程と複雑な心情を分析した。東呉大学沈恵如「東亞戲劇傳承的合縱與連橫—以崑劇與能劇的合作為例」は、中国の京劇、昆曲と日本の能劇の創作、舞台演出の協力事例を挙げて、東アジア文化伝承の新しい形を提示した。東呉大学謝政論「近代以降東亞對『啟蒙文化』的輸入與反思」は、洪沢栄一、稻盛和夫などの思想を事例に挙げ、近代以降の文化の啓蒙に関して論じた。廈門大学王華「台灣研究的知識困境」は、

経済学の需要と生産の角度から中国における台湾研究の学術的苦境について発表した。中国閩台縁博物館楊彦杰「中國東南海域的航海紀錄與傳承」は、『莆田水路簿』をはじめ、福建省にある複数の民間航海案内写本の比較から航海経験の伝承を再現した。東呉大学劉書彬「從馬來西亞的政經制度看馬國華人的發展: 民主、公平 v.s. 種族與宗教角度的分析」は、マレーシアのマハティール新政権発足1年の運営を振り返り、新政権のマレー人優遇政策について実質的な変化が見られないことを主張した。愛知大学国際問題研究所村上亨二「八二三砲戦における金門地域からの民間人の避難—新聞報道を中心とした一考察—」は、新聞報道から金門八・二三砲戦における民間人の避難について考察した。政治大学前田直樹「ケネディ政権の金門政策」は、ケネディ政権の金門政策、金門島の位置づけの変容の過程を分析した。金門大学陳慧菁「美中貿易戦下對東亞情勢的影響」は、アメリカの覇権・勢力均衡戦略における東アジア情勢の進展を報告した。愛知大学大学院中国研究科博士課程院生林涛「从“陆客”金门行看旅游的本真性」は、現地でのフィールドワークに基づいて、中国大陸観光客の金門観光からみる「観光の真正性」について発表した。

大会は当日遅くまで続き、活発な議論が繰り広げられ、非常に有意義な学術交流となった。大学間協定四大学合同国際シンポジウムは今後も継続して進行していく予定である。『紀要』の紙幅の関係上、一部の論文しか掲載できなかった。ここに謹んで今回の四大学合同国際シンポジウム論文発表者に謝意とお詫びを申し上げる。(文責：黄英哲)